

シュア・スタートと イギリスの乳幼児・家族支援

子どもの貧困解決元年2010 国際シンポジウム

主催:「なくそう! 子どもの貧困」全国ネットワーク

第二部 シンポジウム;イギリスの多様な取り組みに
学ぶ

会場 立教大学 池袋キャンパス8号館 8202教室

日時 2010年11月13日(土) 13:00-17:00

埋 橋 玲 子 (うずはしれいこ・同志社女子大学)

背景(1997年政権交代以前)

- ▶ 就学前の乳幼児に対する公的保育サービスの不在
「必要のある子ども(貧困、障がい、社会的不利)」
に対してだけ(2%程度)
- ▶ 一般的な主な保育手段はチャイルド minder、プレイグループで、私立保育所は保育料が高く、一般的ではなかった
- ▶ 保育サービスに民営化はなかった;もともと市場に置かれていた;「子育ては私事、乳幼児のケアは家族で行われるべき」とする伝統的な考え
- ▶ エスピン・アンデルセン「3つの福祉国家類型論」で自由主義レジュームに属する。

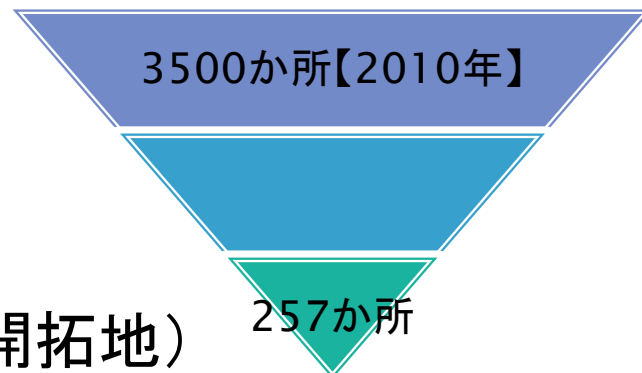
シュアスタートって何？

アメリカ 1965年～
貧困戦争 ヘッド・スタート

- ▶ 1997 イギリス 政権交代(保守党→労働党)
子どもと青少年に対するサービスの横断的見直し
＝財政支出の見直し
サービスの質の地域格差と細切れの状態での提供
- ▶ 1998 省庁合同プロジェクト
シュアスタート(確かな出発)・イニシアティブ
↓
- ▶ 貧困地域の就学前の子ども(～4歳)とその家族を対象として
教育・福祉・保健など効果的・合理的なサービスデリバリー

地域プログラムから チルドレンズセンターへ

- ▶ 1998年 シュアスタート地域プログラム
(Sure Start Local Program)
- ▶ 2003年 シュアスタート・チルドレンズセンター
(Sure Start Children's Centre)



どんな地域か

- ▶ **2001年 シュアスタート全国評価機構の立ち上げ**；
第一期6年について、政策実行・地域分析・影響・対費用効果・地域評価支援の5部門での評価実施
- ▶ SSLPが実行された地域＝最悪の条件が揃っている
↓
 - ・子どもと大人の保健、学業成績、勉学態度、犯罪、失業、公的扶助への依存など多くの指標で、必ずイングランドの平均を下回る。
 - ・低所得、失業、児童貧困はすべて全国平均の2倍を上回る。

- 恵まれない状況は共通していても、**地域的な差**がかなりある。
- イングランドの下位20%の窮乏した地域の中でも SSLPの実行された地域はそうでない地域と比べて、所得水準と就業率が低く、児童貧困は多く、学業成績は悪く、保健の状態も悪い。
- 4歳以下の子どものお家庭の半分以上に働き手がおらず、この割合は全国平均の2倍近い。

- 他地域と比べて幼少児の健康問題が多く、4歳以下の子どもで胃炎で病院を受診する割合は全国平均の2倍であり、深刻なけがをするものは50%多く、呼吸疾患は30%多い。
- 小学校と中学校の学業成績が全国平均を下回る。怠学問題が平均より多い。
- 全国平均よりも犯罪の発生率が高い。強盗の被害率は全国平均の160%多く、犯罪被害と薬物汚染は130%多い。
- 失業手当受給率は全国平均の2倍以上である。

シュアスタート地域プログラムの成果

▶ 2008年 報告書『SSLPが3歳児とその家族に与えた影響』 9か月時&3歳時



- ・SSLPを受けた3歳児の親の方が、そうでない親よりも、子どもに接するときには否定的でない態度を取り、よい家庭学習環境を整えている。
- ・SSLP の3歳児の方が、そうでない3歳児よりも肯定的な社会的態度を取り、自立・自律において優っており、社会的発達が良好である。
- ・SSLP の3歳児の方が、そうでない3歳児よりも予防接種率が高く、事故発生率が低い(?)
- ・SSLPの地域に住んでいる家族はそうでない家族よりも、子ども・家族関係のサービスを多く受ける。

チルドレンズセンターの前身


- ▶ 政権交代以前より、各地域のコンバインド・センター（教育局と福祉局合同）、ナーサリー・スクール、チャリティー(NPO)の存在
- ▶ 保育重点センター Early Excellence Centre、近隣地域保育所 Neighbourhood nursery (2001 ~ 2004) からの移行

提供するサービス

- ▶ **幼児教育(初期学習early learning)と全日保育の統合された形態**、半日保育、立ち寄りの活動
- ▶ チャイルドマインダーのサポート
- ▶ 妊婦のサポート
- ▶ (言語、スピーチを含め)子ども保健サービス
- ▶ 公衆衛生情報と助言(禁煙、肥満、母乳育児)
- ▶ 雇用(教育、訓練)の助言と支援
- ▶ 父親の育児サポート
- ▶ アウトリーチ
- ▶ その他

チルドレンズセンターの施設長資格 ＝統合センター・リーダーシップ全国専門資格 National Professional Qualification for Integrated Centre Leadership 創設

- ▶ 学習と発達の促進
- ▶ 家族と地域の強化
- ▶ チームの構築と強化
- ▶ 組織運営
- ▶ 説明と責任
- ▶ 現状改善と将来展望



家族と
子どもの
向上

地域の保護者からの評価

- ▶ 2008年、設立2年以上のセンターを知っているまたは利用したことのある1496人を対象
- ▶ **全体的には肯定的評価**
 - 78% 「よい」、45% 「利用したことがある」
- ▶ **どんな方法で知ったか**
 - 33% 口コミ 26% ヘルス・ビジター
 - 20% 見かけた
 - かかりつけ医、助産婦、チラシ、広告、職員から

(続き)

- ▶ 使っているサービス
保育と幼児教育 24%
- ▶ 他のプロバイダーを知っている 69%
プレイグループ 52% デイ・ナーサリー 42%
ナーサリー・スクール 39% クレーシュ 34%
プレ・スクール 30%
- ▶ 保健サービス 13% 家族・親支援サービス 9%
半数しか知らない(50%、 49%)

ペングリーン・センター Pen Green Centre

▶ 1983年 ファミリー・センターとして発足

▶ <事業>

- ・子ども対象; 2~4歳の幼児教育、プレイグループ、託児室、学童保育、青少年クラブ、必要のある子どもの養育グループ、親子グループ、休暇中保育、親子のための遊び計画
- ・成人対象; 健康クリニック、治療的グループ、放送大学、成人学習クラス、給食、等
- ・専門家との連携(ソーシャル・ワーカー、ホームビジター、ヘルス・ワーカー)

▶ <研究プロジェクトへの参加>

- EC保育ネットワーク(1986-1996)
- EEL(=効果的な初期学習)プロジェクト





通りの様子



朝の様子(登園時)

親のエンパワーメント

▶ 親との協同

子どもの学びへの親の関与プロジェクト

Parents Involved in Their Children's Learning

- ▶ 1995 家庭での様子のビデオ撮影＋保育中のビデオ
- ▶ 1996 研究資金 試験的に10組の親子
スタッフと親のトレーニング・セッション
(夕方であれば夕食、託児サービス)
スーザン・アイザックの理論の学習
子どもの夢中度を測定するスケールの採用

- ▶ 全体の親を対象、3つのグループ
ビデオ等観察記録の活用
- ▶ スタッフ、親たちの子どもの発達に対する理解の
深まり → 子どもの問題行動の消失
きょうだいの育ちに好ましい影響
- ▶ 地域への影響 0～2歳児対象「ともに育つ」プロジェクト
→ シュアスタート地域プログラムによりサポート
- ▶ 多くのビデオ、出版物、カンファレンスの開催
- ▶ 「機会拡大」リサーチベース、研修棟の建設

▶ <運営の理念>

- 学ぶことは生きること Learn to live
- 保育サービスを恵与的な福祉として提供するのではなく、子どもの学びに焦点を当て、親たちに対し十分な関心を向けた。保育サービスの利用者として位置づけるのではなく、子どもの最初の教育者としての強力な関与を求めた。



(続き)

- ・親たちは子どもの教育に深くかかわることで親役割を学び、子育ての満足感・達成感を獲得するとともに、自分自身の**エンパワーメント**を果たした。

＜写真上；保護者とスタッフが協力して作った科学遊びのエリア＞



- ・子ども、親、スタッフがそれぞれ**スティック・ホルダー**として相互に関わっている。

＜写真下；記録をとるスタッフ。保護者との意見交換や自分のリサーチのため＞

ペングリーン・センターの スタッフ研修(開発)プログラム

- ▶ **第一段階**;リスニングスキル、カウンセリング、家族ダイナミズム、家庭訪問、親との協同
- ▶ **第二段階**;アサーティブネス(自己主張)、グループワーク、結婚カウンセリング、同僚との境界
- ▶ **年間プログラム**;ジェンダー問題、人種問題、暴力、救急
- ▶ **子ども関係**;児童心理学と児童発達、幼児教育カリキュラム、問題をもつ子どもへの対応、査察、記録法(教育モデル、福祉モデル)、児童虐待、児童保護
- ▶ **新制度への対応**
- ▶ **協同についての研修**;他機関との共同、チームビルディング等

背景：生涯学習システムの構築

- ▶ ブレア政権は**幅広い社会層への教育機会の拡大**を政策アジェンダとして掲げた。
- ▶ 1997年 資格・カリキュラム局 設置。
- ▶ 2002年 最初の全国資格フレームワークを作成。

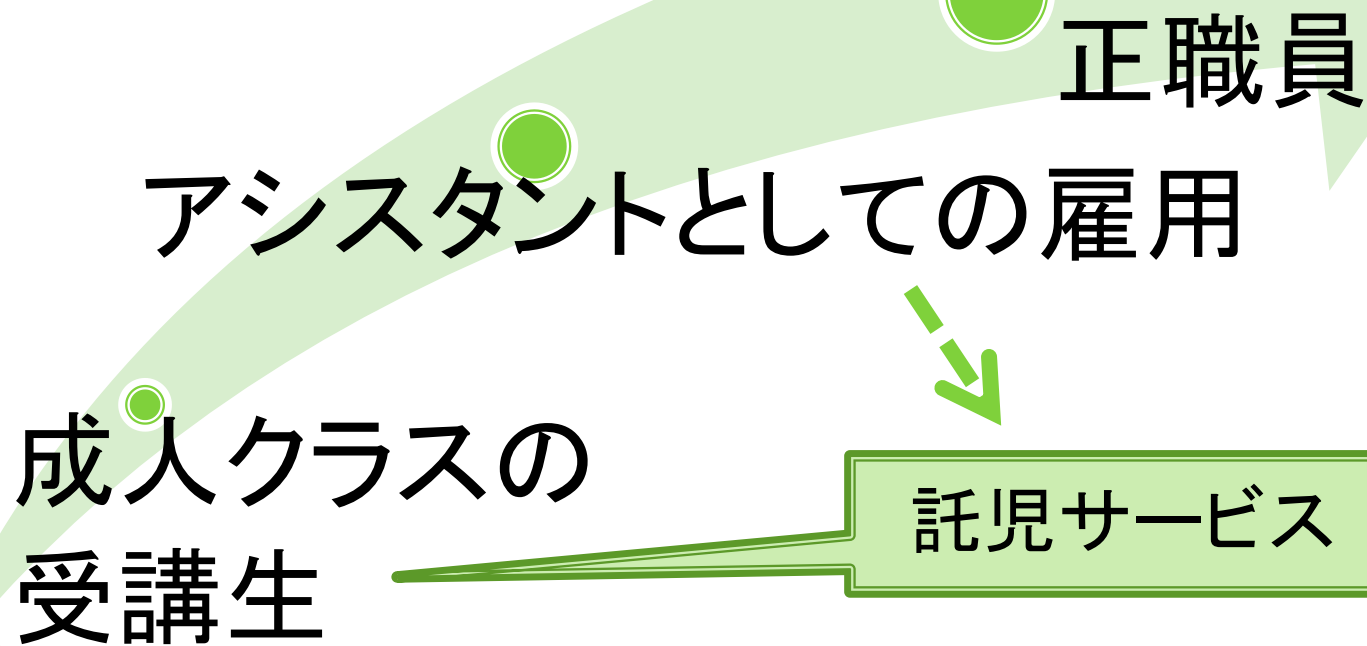
それまで数多くの専門職団体が内部的に管理していた資格を外部機関である資格・カリキュラム局が認証するようになった。

- ▶ 2004年に修正。同時に高等教育資格との比較対象が可能になった。
- ▶ 多種多様な資格がレベルを示す**同一のフレームワークのどこかに位置付けられる**ことで資格の全体像が明らかになり、資格間の移動や資格取得の組み合わせがしやすくなり、**多様なキャリアルートが追及できる**ようになった。

(続き)

- ▶ 2007年 資格・カリキュラム開発機関に改編
- ▶ 資格・クレジットフレームワークが示された。これにより資格が「ユニット(項目)」と「クレジット(単位数=学習量)」で表現されるようになった。
- ▶ すべての資格には次の3つの情報が示され、資格のタイトルを見ただけで何についての資格か、どれくらいの難しさか、どれだけの学習量が必要なのかが判断できる。
 - 資格のレベル(入門レベル~レベル8)
 - 資格のサイズ(アワード/サーティフィケート/ディプロマ)
 - 資格の内容の詳細

ペングリーンセンター キャリアアップの例①



ドロシー・ガードナー・センター(ロンドン) Dorothy Gardner Centre



DGC 多様性の受容



DGC 家族支援



ランドルフ・ ベレスフォード 乳幼児センター



エフアラ乳幼児センター(ロンドン) Effra Early Years Centre







シュア・スタートからの教訓

- ▶ 地域の実情に応じてのサービス展開。コミュニティ・ディベロプメント。
- ▶ 社会的インフラストラクチャーとしてのキャリア・ラダー構築（1980年代より）の背景の存在。
- ▶ 福祉分野のマンパワーの存在。
強力な民間の草の根活動

提案

- ▶ 新システム内で「貧困」への焦点化。
- ▶ 現状調査と保育所システムの見直しと強化、専門家の育成。
- ▶ 保育サービスを市場原理で運営しない＝サービスの消費者として位置づけない。
- ▶ 子ども、親、援助者のいずれも組み込んだ知識基盤社会における生涯学習のシステム構築。